

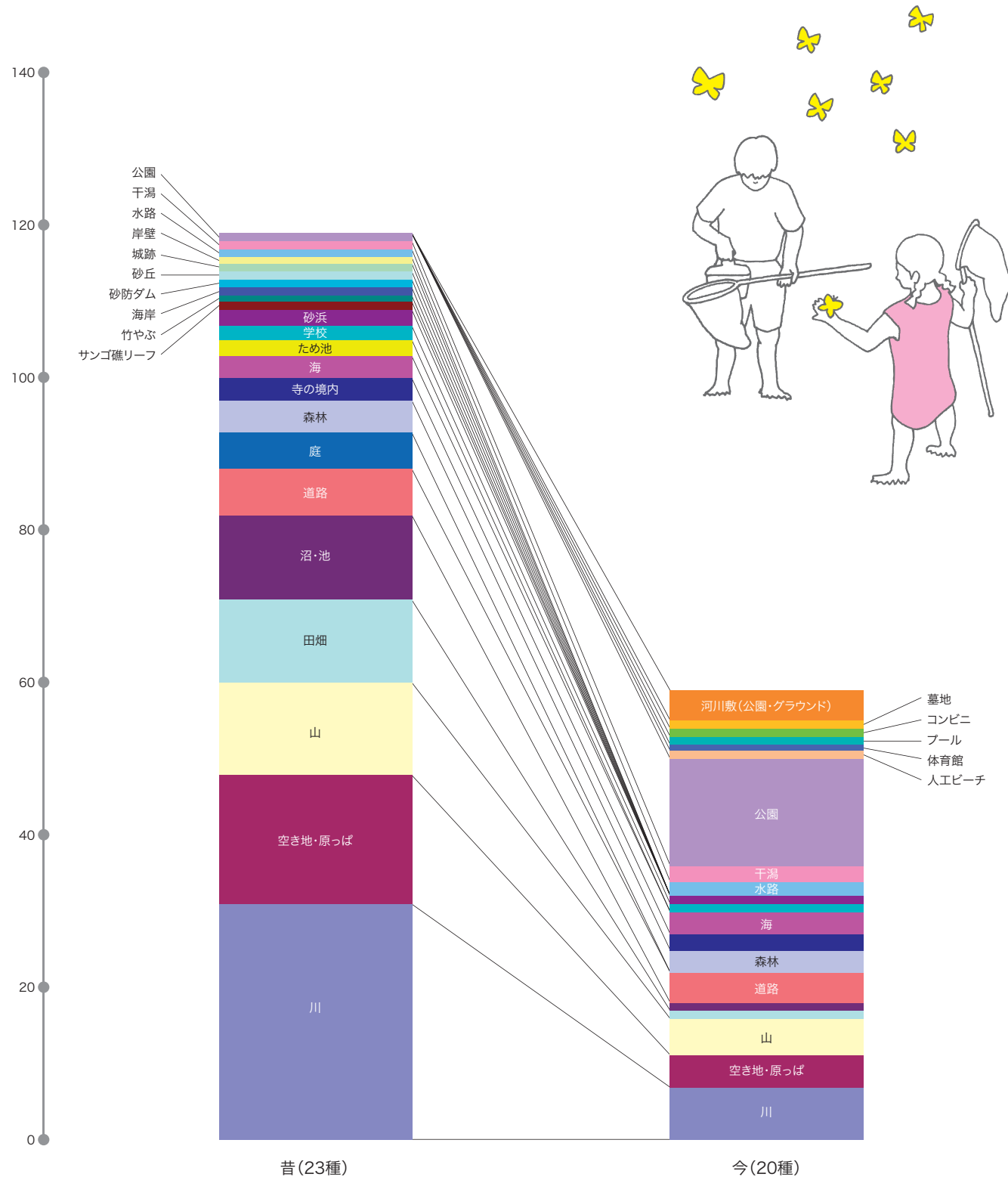
8. 「子どもの遊び場」の巻

「昔」は、川、空き地・原っぱ、山、田畑、沼・池が遊び場の2/3を占めていましたが、今はとても少なくなりました。代わって、かつてはほとんどあげられなかった公園、河川敷(公園、グラウンド)が多くあがりました。

「砂浜が広がったのでいろいろな遊びができた」(昔)、「池

は埋め立てられて運動場になった」(今)というように、遊び場だった自然が変化してしまったことも報告されました。

河川は危険、海は怖いところ、池は危険な場所、子どもだけで遊ぶのは危ない、など今の遊び場についての報告には「危険」の文字が目立ちました。



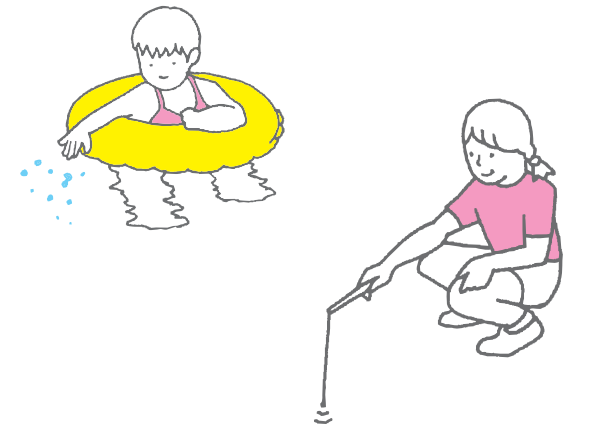
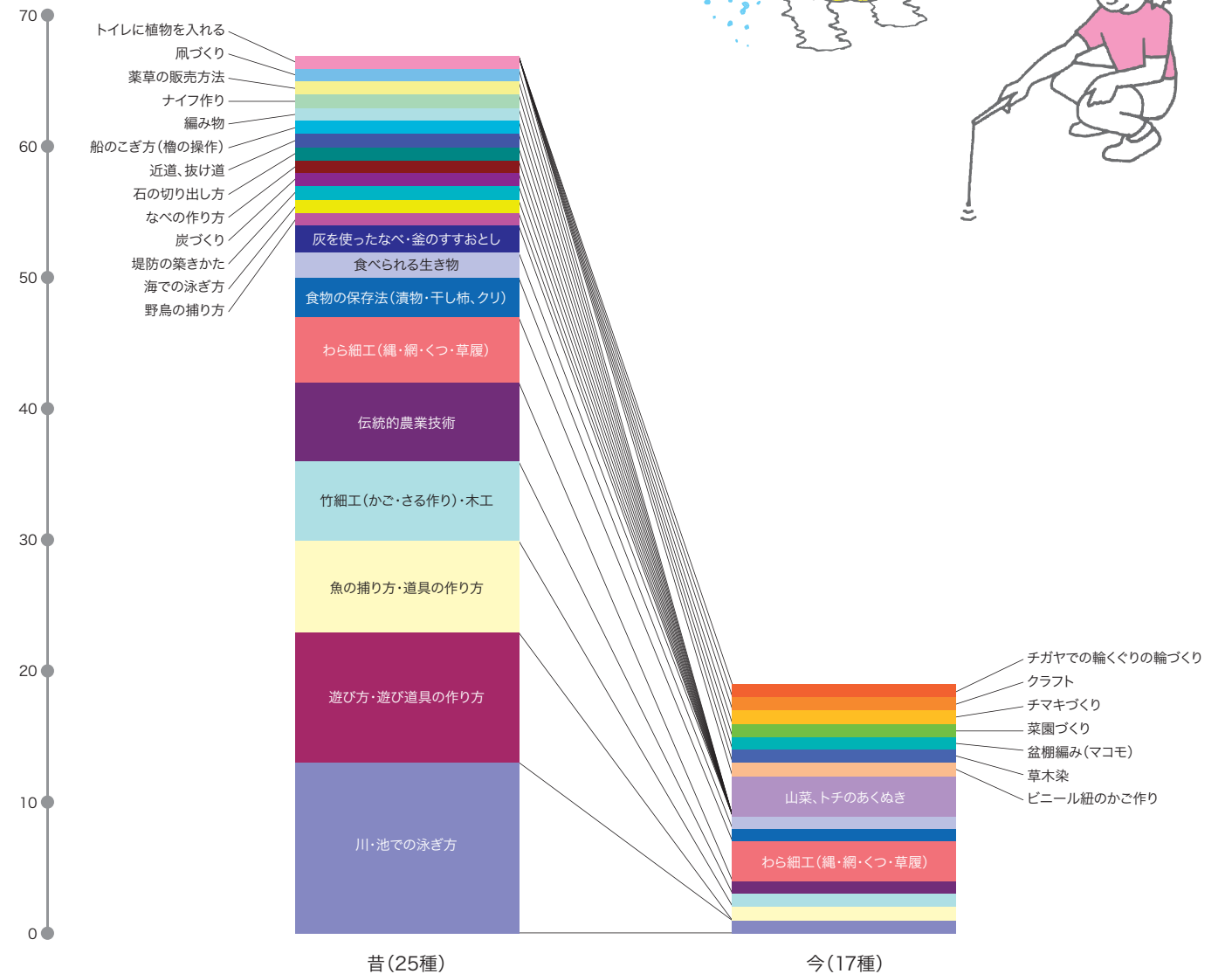
9. 「地域で伝える知恵と技術」の巻

地域の中で伝えられた技術・トップ 7

- ① 川・池での泳ぎ方
- ② 遊び・遊び道具の作り方
- ③ 魚の捕り方・道具の作り方
- ④ 竹細工(かご・ざる作り)・木工
- ④ 伝統的農業技術
- ⑥ わら細工(縄・草履など)
- ⑦ 食物の保存法

「今」では、ほとんど伝えられることは少なくなりましたが、縄作りと山菜のあく抜きが比較的多く伝えられていました。「昔」は年長者やがき大将が伝える役で、その重要性が多く指摘されましたが、「今」は環境学習、総合学習といった場で、かるうじてその役の一部を果たしているようです。

地域に伝わる技術と暮らしの知恵



10. 「地域の行事と祭り」の巻

「昔」の報告が多かったのは、夏の祭り、盆・盆踊りでした。次いで正月のどんど、秋の十五夜、秋祭り、地区、季節ごとの講や行事があげられました。今でもどんどや秋祭りは引き継がれて行なわれているものが多いようです。

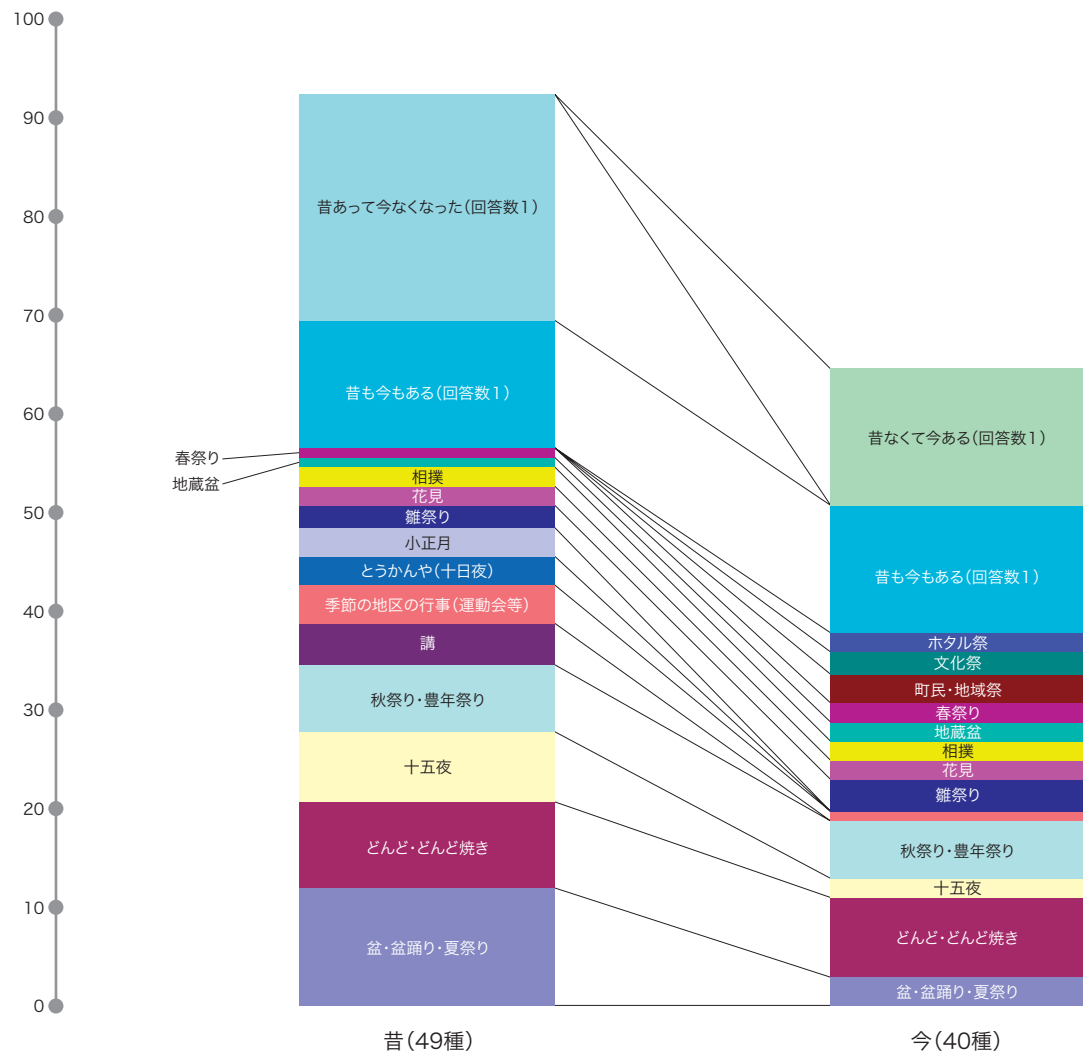
地域の行事や祭りは、全体的には今では少なくなっています。その理由として、行事にかかる人手、労力不足があげられました。引き継がれて行なわれていても、規模や時間を縮小させた、地区ごとにやっていたものを町全体でやるようになった、一部を取りやめたという報告がありました。また、行事の意味が伝わらず流れてやっっているだけ、農に関する行事だったが農業が衰退したため健康祈願に意義を変えてやっっているといったものもありました。

昔はやっておらず、新しく行うようになったものは、文化祭、ホタル祭り、ウォーキング大会などイベントが多くあげられました。



これらの行事や祭りは地域性が強く、似たようなものでも少しずつ違うため、回答数1として扱うものが多くありました。生き物に直接関係しているものとしては、花見、ホタル狩、もみじ狩といったレジャーのほか、鳥追い、オンカ送り(虫送り)、とうかんやなど、農と関係の深いものがあげられました。「とうかんや(十日夜)」は、子どもたちがワラ束で地面をうって練り歩き、農作物を食べてしまう地中のモグラやネズミを追い払う行事です。

◎地域の行事、祭りの報告数



11. 「地域の神様」の巻

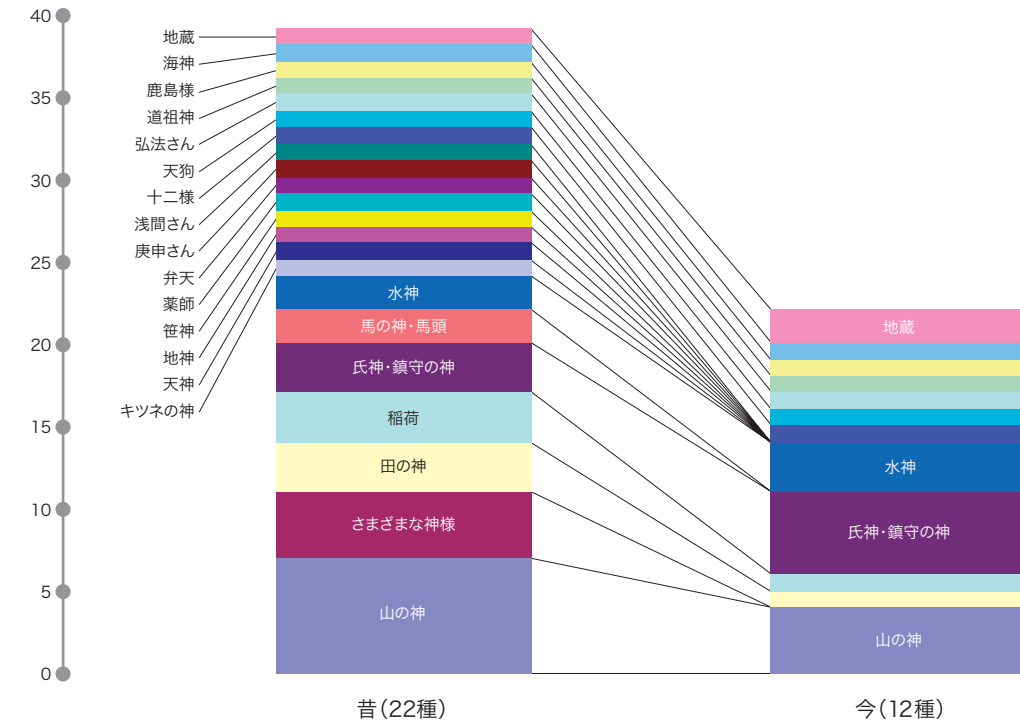
今は昔と比べ、日常的に付き合いのある神様の種類が減少していました。

「昔」は、山の神、田の神、稲荷、氏神の順で多く、「今」は氏神、神社が多くあがりました。また、「昔」の回答では、具体的な神様の名前をあげず、いろんな神様、さまざまな神様がいたとあったのが特徴的です。「今」でも山の神、田の神、水神があげら

れていますが、祠や石像があるという報告が多いのに対し、「昔」は神様へのお供えやまつりとセットで報告されました。

神仏との付き合いかたについては、今も昔も季節の行事として祭りが多くあげられました。一方、お供え、お迎えなど日常的な付き合いは減少していました。

◎地域の神様についての報告数



◎地域の神様等との付き合いについての報告数

